

2017年度③

刑 法

(全 1 ページ)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙・下書き用紙は、この冊子の中に折り込んであります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入下さい。
4. 解答は指定された範囲に記載すること。「書き終わり」をこえて記載した場合は、採点をしないことがあります。
5. 試験終了後、問題冊子・下書き用紙は持ち帰り下さい。

刑 法③

次の問題 I・IIのうち1問を選択して解答しなさい。

I 中止未遂における刑の必要的減免の根拠を述べた上で、以下の事例における甲および乙の罪責を論じなさい（特別法違反の点は除く）。

甲（女性）は、自己の妹Aがプロの歌手として名声を得ているのに自分は歌手として売れないままであることから、Aに対して嫉妬のあまり彼女を殺害しようと考えた。そこで、甲はプロの殺し屋乙に報酬を支払ってAの殺害を依頼した。しかし、その後、自己の非を悟った甲は、乙によるA殺害を阻止しようとして、これもプロのボディーガードBを雇い、その結果、Bは、仕込み銃でAを殺害しようとして狙いをつけ引き金に指をかけた乙を、弾丸発射直前に狙撃して乙に重傷を負わせ、Aを救助した。

なお、Bはボディーガードとしては超一流で、これまで、狙われた人物の保護に失敗したことは一度もなかった。また、Bの上記狙撃は正当防衛に当たるものであった。

II 以下の事例における甲の罪責を論じなさい（特別法違反の点は除く）。

甲は、中学を卒業後に家出し、アルバイトをしつつ不良仲間の部屋に入り込んで過ごしていたが、家出して半年後、遊ぶ金がなくなったので、自宅に帰って金目の物を持ち出そうと考え、自宅に着いたところ、留守であった。そこで、以前から持っていた鍵を使って中に入り、居間を見渡したが金目のものがないので、父親Aの部屋に入ったところ、机の上に本格的な高級カメラがあった。甲は、それをAの持ち物と考えて持ち出し、売り払った。ところが、そのカメラは、Aが友人のBから一時借りていたもので、Aの持ち物ではなかった。